

ホームステイ Q&A

Q1 言葉が心配です

簡単な言葉や身振り手振りでも大丈夫です。いちばん楽しく遊んだのは言葉が出来ない小さな子どもであつたりますので、あまり心配はいりません。必要に応じて県連盟や地区の国際委員会、または地域の国際交流協会などに相談することもできます。



Q2 部屋の準備はどうしたら良いでしょう

特別に部屋を用意できなくても、寝る場所が確保できれば大丈夫です。子どもと同じ部屋でも結構です。子どもがリビングで寝て自分の部屋を提供するなどの工夫をしてもよいでしょう。またベッドが無くて、日本の生活習慣として布団で就寝することは貴重な体験の機会になります。

Q3 おもてなしはどのようにすればよいでしょう

普段の食事を家族と楽しくすること、自分の子どものように家族として接することが最大のおもてなしになります。お客様として接するのではなく、自分の子どもと同じように家族として接して下さい。気にしすぎ、神経質になりすぎ、世話をやきすぎないことがポイントです。

Q4 観光地などへ連れて行かなくてはなりませんか

観光地やテーマパークなどに連れて行く必要はありません。団や隊の集会、学校や部活動の見学、スーパーなど普段の買い物と一緒に行くことで充分です。そのような日常生活の体験を彼らは望んでいます。

Q5 アレルギーなどの食事制限はどうすれば良いですか

普段召し上がっているものを一人分追加することで結構です。最も理想的なホームステイは、通常の日本人の生活を体験することが目的です。アレルギーや嫌いなもの、宗教や自国の生活習慣で受け入れられないものなどは事前に情報を提供します。



Q6 同じ年頃の子どもがいません

同年代のスカウトや子どもがなくても問題ありません。家族の一員として受け入れ、暖かく接してあげることで充分です。

Q7 費用の負担はどうすれば良いでしょうか

基本的には、滞在中における費用すべてをホストファミリーが負担する必要はありません。ゲストの個人的な支出、例えば外出時の交通費、買い物などは当然ゲストの個人負担になります。

Q8 泊められますが、仕事で日中の相手が出来ません

団や隊、地区の方と連携して、日中の相手をお願いするなど協力して連携することも可能です。

Q9 病気やけがをした場合はどうすれば良いでしょうか

万が一病気やけがをした場合には、指導者と連絡が取れる連絡体制を整えています。また、それらの費用はゲストの費用負担で対応します。

ホームステイを 引き受けた理由は何ですか？

経験者に聞きました

- 国際交流の経験を得る事ができ、子どもたちにとっても大変良い刺激になると思ったから。
- 海外の方と接するチャンスがないので是非チャレンジしたかったから。
- 次男（現在4歳）がスカウトの時にハワイでホームステイをし、大変お世話になった。また、様々な体験をして随分成長した事もあり、色々な国々の子どもたちと交流を深めたいと思ったから。
- 外国のスカウトとふれあい、日本にないものを感じたいと思ったから。
- 英語力、国際交流能力の向上のため、子どもたちに国際感覚を身につけさせたかったから。

ホストファミリーの支援体制

所属されている団や隊で、ゲストを受け入れる体制を整えることも良いでしょう。団や隊での歓迎会や隊集会、班集会などに参加する、または近隣の案内をすることは、ホストファミリーの負担を軽減させるだけでなく、団のスカウトにとっても、海外のスカウトと交流出来る良い機会になります。

受け入れ準備のための、ゲストに関する情報は事前に提供されます。また、ホストファミリーを支援する体制を、県連盟、地区で整えますので、受け入れ準備、コミュニケーション、習慣、文化などの情報提供をいたします。また、緊急時の連絡、支援体制も整えて、ホストファミリーをバックアップ致します。また、ホームステイを初めてお引き受け頂く方は、日本連盟発行の「ホームステイの手引き」を参考にしてください。

http://www.scout.or.jp/for_members/intl/intl_tips.html



公益財団法人
ボーイスカウト日本連盟

〒113-8517 東京都文京区本郷1-34-3

TEL 03-5805-2561 TEL 03-5805-2901

HP <http://www.scout.or.jp/>

2014年12月発行

第23回世界スカウトジャンボリー
2015年開催
2015年7月28日(火)～8月8日(土)
山口阿知須・きらら浜 他

スカウト達が国際人になるための第一歩

ホームステイ のススメ



公益財団法人

ボーイスカウト日本連盟

SCOUT ASSOCIATION OF JAPAN

国際人になるための第一歩

スカウトたちを世界で活躍できる国際人に育てるためには、海外や外国語に興味を持たせる体験が大切です。ホームステイから海外への興味が始まります。ふれあいの経験は一生の宝物です。

世界に友だちを作ろう

第23回世界スカウトジャンボリーには、162の国と地域から2万人を超えるスカウトと指導者が参加します。多くの方が、日本の家庭で文化・習慣に触れたいと、ホームステイを希望しています。ホームステイは日本にいながら世界に友だちを作ることのできる国際交流です。ボーイスカウトのホームステイでは、よくH○H○(Home Hospitality Programme の略称)、「ホーホー」と呼ばれることがあります。



普段の生活を体験させてください

ゲストは素顔の日本を知りたいと希望しています。団や隊の集会に参加したり、学校を見学したり、スーパーに買い物に行くなど、家族の一員として迎え日本の生活を体験させてください。テーマパークや観光地に行くなど特別な対応ではなく、普段の日本の生活を体験することをゲストは期待し希望しているのです。



誰にでも簡単にできる身近な国際交流

日本にいながら、家族全員が異文化体験を出来るのは、ホームステイの醍醐味です。また、日本の文化や習慣に気付く良い機会にもなります。



ホストファミリー体験談

いつか外国に行ってみたいな!

カブスカウト

お母さんと一緒に日本の料理を作りました。作り方をお母さんが苦労して英語で説明していましたが、どうにか通じたいです。お別れの時、もう少し欲しくてとても悲しくなって涙が出て来ました。英語をもっと勉強していつか外国に行ってみたいです。



英語を話せるようになるぞ!

ボーイスカウト

あいさつくらいしか英語が出来ないのでとても不安でした。でもゆっくり英語を話してくれたので安心しました。ゲームをしたり、日本の遊びをしたりして遊びました。私はまだ英語が出来ないので、話せるようになって、いずれ外国でホームステイをしたいなあと思いました。



涙が出るくらい楽しかった!

ベンチャースカウト

コミュニケーションが取れるか、期間中楽しく過ごしてくれるかなどの不安と緊張がありましたが、すぐに打ち解けることが出来ました。近くのお寺や学校の見学などをして過ごし、楽しい時間はあっという間に過ぎました。別れるとき僕らは泣いていて、三日で別れる程仲良くなれるスカウト同士の友情は熱いものだと思います。今回の経験はぼくにとって一生の財産です。この経験を今後のスカウト活動などに活かしていきます。



異文化を感じる良い機会

カブスカウト保護者

我が家は誰も英語を話せませんが、子どもが受け入れたいと言う事で手を挙げました。小学生の息子は家に着くなり、「トランプをしよう」「買い物に行こう」と積極的で、不思議と違和感も少なくホームステイがはじまりました。たこ焼きや海苔巻き作り、茶道、着付けなどお互いの文化を肌で感じられた良い機会になりました。



保護者の声

受入国：ブラジル

「子どもたちが相手の国の事をインターネット等で調べ、子供同士でメールの交換をしていました。子供たちはいつの日にか相手国に行ってみたいという夢を持っています。」

受入国：アメリカ

「初級の息子は、出会いの時はとても緊張していましたが、団歓迎会等の行事で心が和んできたようです。アメリカスカウトの知人が日本にいたので訪問しました。この3日間は彼にとって良い思い出ができたようで、成田では別れを惜しんで号泣していました。」

受入国：韓国

「はじめは緊張し、不安でしたが、団歓迎会や小中学生との交流等を行い楽しかったです。気持ちが通じれば交流はできると感じました。子どもたちが自信を持ち、世界に目を向けられるようにと願っています。」

受入国：フィリピン

「特に遠出はせず、近所の買い物・銭湯などに行きました。ありふれた日本の日常生活に興味を持ったようです。小さな子ども達の子守をしてくれて、子どもたちは楽しかったようです。」

外国スカウトの感想

インドネシアのスカウト

「ホスト家庭とスカウトと共に訪問した高校の化学の実験室などを見学させて頂き、その充実ぶりには驚きました。また、学校と一緒にスポーツをした事はとても良い経験でした。」

アメリカのスカウト

「ホスト家庭の方々は英語を話せませんが、一生懸命に話しかけてくれたので、なんとかコミュニケーションを取る事が出来、問題はありませんでした。食事、文化など日本がとても好きになりました。」

イギリスのスカウト

「ホスト家庭が自分たちの部屋を私の為に提供して下さいました事に感謝しています。いつかこのお返しをしたいと思っています。」

